

大学の外国語教育における
 CEFRを参照した到達度評価制度の実践
 -大阪大学外国語学部の事例を中心に-

真嶋 潤子

大阪大学世界言語研究センター
<http://homepage.mac.com/jmajima1/bukosite/home.html>



本発表の内容構成

- 1 背景と目的
- 2 問題の所在
- 3 「言語教育プログラム改革」の方法
- 4 「改革」の結果
- 5 学習動機の変化
- 6 次のステップ
- 7 最近の動きと応用可能性

大阪大学と大阪外国語大学の統合
 2007年10月1日

大阪大学: *Live Locally, Grow Globally*

- 学部定員で国立大学中最大 学部生16000名(学生数約24000名)
- 留学生の増加 (Global 30) 約1500名

吹田キャンパス 箕面キャンパス 豊中キャンパス



大阪大学の外国語卒業要件単位数

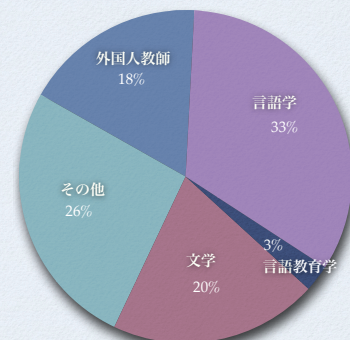
学部	第1外国語	第2外国語	選択外国語	特別外国語	専攻語
	英語	独仏露中韓西伊	英/独仏露中/	広蒙TaBu HiAcTuSwHuDeSw	25言語
人科	6	4	4		
文学	8	4	4		
法学	8	4			
経済	8	4			
外国語	4				10+10+8
医学	6	3			
歯学	6	3			
薬学	6	3			
理学	8	3			
基礎工	8	3			
工学	6	3			

背景と目的

[外から] 国立大学法人化+大学統合の話
 --> 教育改革の要請

[内から] 学生が満足していない
 このままではいけないという教員の声

専攻語を教えている教員の構成



専攻語ごとの目標 (2003)

「1年生は初級、2年生は中級
3、4年生は上級を目指す」

????

具体的に何が目指されているのか？

言語間の比較ができない！

問題の共有ができない！

どうやって外大の言語教育を改革するのか！？

7

問題の所在

学生からの不満の声 → 教育改善の必要性

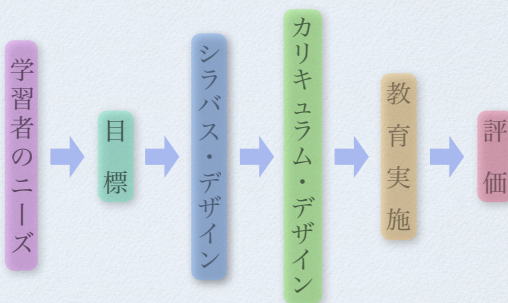
教員の専門性 → 教員サポートの必要性

教員間のコミュニケーション不足・「たこつぼ化」
専攻語アンケートの結果

→ 不透明 → 「共通メタ言語」が必要

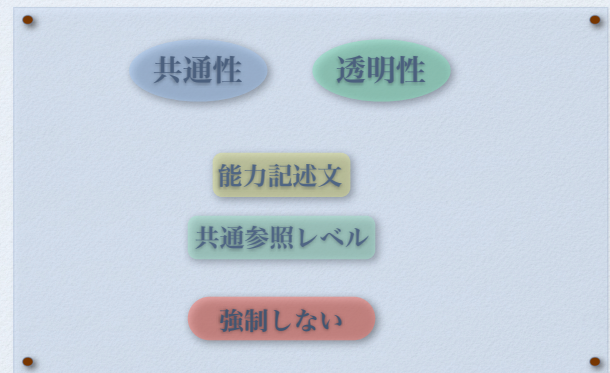
8

コース・デザインの流れ



9

CEFRの利用



10

到達度評価制度の構築

到達度目標の設定と提示

カリキュラム編成・成績評価システムの確立

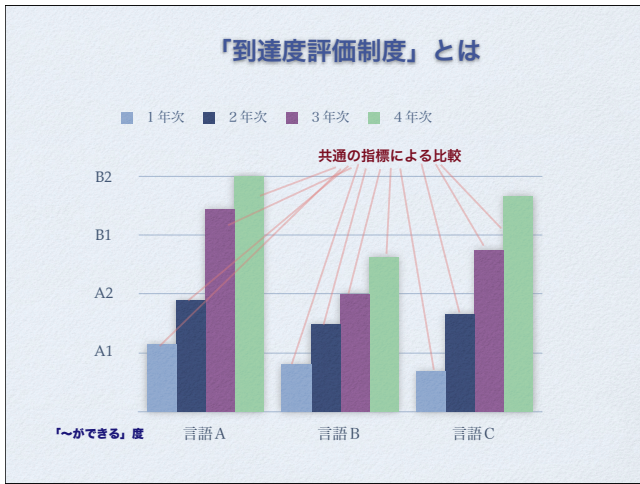
標準テスト・検定試験の開発

11

「到達度評価制度」とは



12



到達度目標の記述方法

4年間一貫の言語教育
学年ごとの到達度目標設定
4技能別5項目の記載
「～ができる」型の記述
専攻語の特性を反映した記述
言語生活全般への配慮

ドイツ語プログラムの事例

	理解すること	読むこと	話すこと	書くこと
4年生	B1 (注：1年間の習字者はC1に到達可能。)	B1	B1	B1
3年生	A2+	A2+	A2+	A2+
2年生後半	(授業で) 明確に記されるなら、授業に関する課題の理解ができる。(ドイツで) 個人や教員の情報、言い物、説明、仕事などの前置詞につなぐ十分な語彙を把握することができる。そのメッセージやアナウンスの意図を聞き取ることが出来る。(注はA2～A2+に対応)	(授業で) 簡単なテキストならその場で理解できる。あるいは音声を聞いて時間をかければ、やや複雑なテーマについての文章を理解できる。(ドイツで) 広告やパンフレット、メニュー、学費表のような具体的なテキストなら、その場で情報を取り出すことができる。単純で短い個人的な手紙や説明文を理解できる。(注はA2～A2+に対応)	(授業で) 日常生活についての身近な話題や場面、あるいは日常生活の内容について数語のリードに分れるような会話の中で、簡単な会話を続けられる。相手がリードによって日常会話の目的やテーマや場面については取り取りをすることができる。(注はA2～A2+に対応)	(授業で) 簡単な内容については、文法的記号やテキスト構造、表題などの手がかりを多くあつても、その場で簡単な報告を書くことができる。十分時間をかければ、教科書やビデオの短い文章を書くことができる。(ドイツで) 簡単な情報についての短いメッセージ、あるいは状況などの個人的な手紙を書くことができる。(注はA2～A2+に対応)
2年生前半	CEF/A2レベルに至る中間点	CEF/A2レベルに至る中間点	CEF/A2レベルに至る中間点	CEF/A2レベルに至る中間点
1年生後半	(授業で) 明確に記されるなら、課題の理解ができる。(ドイツで) 身の回りや個人的な情報に関する基本的な単語や表現、説明を聞き取れる。(注はCEFR/A1レベルに対応)	(授業で) 簡単な教科書のテキストを辞書の助けを借りて理解できる。(ドイツで) 標本やポスター、カタログなどに書かれた、よく知られた名前や単語、単純な文章を理解できる。(注はCEFR/A1レベルに対応)	(授業・ドイツで) 簡単なやり取りの話し、簡単なやり取りの聞き、また自分から簡単な質問や発言を出来るようになる。必要に迫られたら簡単な単語や表現について簡単なやり取りをする事が出来る。(注はCEFR/A1レベルに対応)	(授業・ドイツで) 自分が見ている物や人、知っている人などについて、簡単な説明や文を書くことができる。大まかな事情や理由を述べることができる。(注はCEFR/A1レベルに対応)
1年生前半	CEF/A1レベルに至る中間点	CEF/A1レベルに至る中間点	CEF/A1レベルに至る中間点	CEF/A1レベルに至る中間点

到達度評価制度のメリット

25 専攻語間の共通基盤
社会的説明責任 accountability
自律的学習者 autonomous learners
教員の意識の変化
海外の大学との連携促進の可能性

今後の課題

到達度目標の適切さの確認と改訂

評価システムの開発 — 4技能のテスト

教材・教授法改善へ

CEFRを取り入れて改革した結果？

学習動機の変化について

パイロット調査 (2010) の結果

「到達度目標」を知っている学生 → 活用
 学生の学習動機は高く自律的

「到達度目標」の存在を知らない学生 →
 教員が知らせていない! ?

教員の「教育」動機を上げるには？

最近の動き（2007年10月の大学統合後）

CEFRに準じて到達度目標と教育内容を再検討
(ハンガリー語)

ロシア語統一試験に準拠したカリキュラム (ロシア語)

CEFRの自己評価チェックリストの活用 (英語)

海外連携ツールとしてCEFRを活用予定 (日本語)

19

最近の動き（2007年10月の大学統合後）

- 2008年：旧外大の「到達度評価制度」を
新阪大外国語学部でも正式に継承することを決定
- 2009年秋：3,4年次の到達度目標策定
- 2010年度の『学生便覧』に掲載

<25言語における1-4年次の到達度目標を示す>

→学生の到達度の評価 →妥当性の検討/改善へ

20

<まとめ：言語教育改革の柱？>

- 「改革」のロードマップ： 到達度目標→ 評価→ 改善
→ 教材開発→ 教授法の工夫→ 評価→改善サイクル
- 学習者の満足度
国境を越えた学生の移動をサポート
生涯学習を視野に 自律的学習者の育成
- 教員の心的サポート (仕事をしやすく)
- グローバル化時代の共通指標 (共通メタ言語) としての
CEFR

21

ご清聴ありがとうございました。

真嶋潤子

jmajima@world-lang.osaka-u.ac.jp

22